

令和3年12月18日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和3年度 第11回

自分の視点を見直しする

おはようございます。

今朝の上毛新聞を見ましたら、コロナ感染で群馬県が「全国最多52名」と一面トップにあって驚きました。コロナに関しては後半に話を致します。

前半は素読から入ります。本日は子張篇の23です。

【二十三】^{しゆくそんぶしゆくたいふ ちょう つ いわ しこう ちゆうじ まさ しふくけい} 叔孫武叔 大夫に 朝に 語^つげて曰^{いわ}く、子貢は 仲尼^{しこう}よりも賢^{ちゆうじ}れりと。子服景伯^{まさ} 以て子貢^{しふくけい}に告^つぐ。子貢^{しこう} 曰^{いわ}く、之^{これ}を 宮^{きゆうしやう} 牆^たに譬^しうれば賜^{しやう}の 牆^{かた} は肩^{およ}に及^{しつか}べり。室家^{しつか}の 好^すきを 窺^{うかが}い見^みん。夫子^{ふうし}の 牆^{しやう} は数^{すうじん}仞^そなり。其^その門^{もん}を得^えて入^いらずんば、宗廟^{そうびやう}の 美^び 百^{ひやく} 官^{かん}の 富^ふを見^みざらん。其^その門^{もん}を得^える者^{もの}は 或^{ある}は 寡^{すくな}し。夫子^{ふうし}の 云^いえること、亦^{また} 宜^{むべ}ならずやと。

ここは、叔孫武叔がやきもちを焼いたと受け止められます。叔孫武叔は魯の大夫です。昔、魯国で孔子と同じような仕事をしていた。自分と大して変わらないのになぜ孔子だけがちやほやされるのだという気持ちが腹の中にあったのかもしれない。

叔孫武叔が朝廷で同僚の大夫たちに、「子貢の方が仲尼（孔子）よりも優れている」と話をしていました。子服景伯はこれを聞いて、子貢に伝えました。

子貢が言うには、「この話を塀に喩えましょう。私の家の塀は肩ぐらいまでしかないの、外から家の中を覗き見することが出来ます。孔子の家の塀はとても高いので、その門を入らなければ屋敷の中の素晴らしさを見る事は出来ません。孔子の家の門を入った人は少ないので、叔孫武叔が言われるのも尤もですが、そのようなものではありません。

こういう話は世の中にいくらでもありますね。先の自民党の総裁選で考えれば、岸田さん、高市さん、河野さんに野田さんと大体皆さん肩の高さくらいで、中を覗いてみようと思えばいくらでも見られるし、お互いに欠点を言い合えるなあと感じました。

レジュメに、「年頃になった子供が、家に居てゴロゴロしている父親を見て、何と親父はだらしがないのかと思う。しかし社会人になって父親の仕事ぶりを見直し、評価を改める事がある」と書きました。

これは逆の場合もあります。ナポレオンは食事の時、料理をボロボロこぼしたそうです。料理人は、こんな人がどうして世の中で褒め称えられるのかと感じる。ナポレオンの素晴らしさは料理人に見えないわけです。

自分自身の判断を顧みて、自分の見ている分野（視点）はどれくらいか考えるとよろしいでしょう。ほんの目の前しか見ていないのか、それとも長期的に見ているか、全体を見ているか……。いつも申し上げている「判断の三原則」で見れば比較的正確なものが出てきますが、自分の小さな視点でしか見ていない場合は評価を誤ります。

ですからこの論語は、自分の判断基準を時々見直しする必要があることを勧めている、そう読んで戴きたいと思います。

恒例の質問

今年も一年が経ちます。コロナはずっと続いているし、世の中はだんだん物価が上がって非常に暮らしづらい状況が始まったと思っています。そこら辺を踏まえながら、今年一年間でお考え下さい。何度も申しますが、あくまで主観でお考え下さい。

○ 今年は、良い日が結構あったと思う方

良い日もあれば悪い日もあります。なるべく悪い事は棚に上げて、良い事だけを見るようにすると過ごしやすいと思います。

○ 今年一年、嘘をつかなかったし、嘘をつかれる事も少なかったという方

皆さん手が挙がりました。嘘に無縁の生活がよろしいですね。

○ 今年一年、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

○ 今年一年、自分としては身体の手入れをかなりしたぞと思っている方

私事で申しますと、今年身体の手入れの仕方を切り替える年になりました。私は今年74歳です。今までは中高年の身体の手入れをしていましたが、今年あちらこちら自分の身体に変化が出て来たので、80代を意識した身体の手入れを研究し始めました。75歳から5年間かけて80代の手入れを身体に沁み込ませようと思っています。70代になる前は、69歳の時に1年間かけて身体の手入れの仕方を変えました。その大きなものは毎日30分自転車に乗ることと、1時間のストレッチです。それでも徐々に筋肉が減ってきましたし、周りをみるとちょっとした事で骨折する人が多いのです。したがって70代後半は骨密度を上げる動き、血管を若返らせる動き、筋肉を増強する、この3点セットで行こうと考えています。

ちなみに先日、運転免許証の更新で後期高齢者の認知機能検査を受けてきました。友人から話を聞いて事前に問題を丸暗記して行ったので、満点でした。そもそも認知症の人は

丸暗記出来ませんから、まだ認知症ではないというわけです。

ですから今年は身体の手入れと頭の手入れ、両方を見直しするのにとても良い年回りだったと思っています。

○ 今年一年、自分磨きを一所懸命やったという方

○ 昨晚、＜来年、こういうことが出来てよかった＞ と思って眠った方

年末で資金繰りが大変な方もおられるかもしれません。＜資金繰りが出来るといいな＞ と思って寝るのは願望です。＜資金繰りが出来た。よかったな＞と過去形で思って寝る事です。＜出来て良かった＞を繰り返していると、気がついたら出来ていたということになります。

不正は急に止まれない

今日ご紹介する本は、『不正は急に止まれない！』（中島茂著 日本経済新聞出版社）です。著者の中島茂さんは弁護士です。何か問題がある、自分でもこれは良くないと分かっているけれども止めることが出来ない・・・個人でも会社でも国家でもありますね。一番悲しいのは、会社が不正をした時、トップが「私は聞いていない。知らなかった」と発言することです。組織のトップは、たとえ自分が知らなくても組織が犯した不正に対して責任を持たなければいけません。

そこで安倍さんの顔が浮かんで来ました。昨日の上毛新聞に、アベノマスクに関して清水市長が「太田市はいらない。地方をばかにしている」とツイッターに投稿したという記事がありました。ご存知の通りアベノマスクは布マスクですから、ウィルスには効果がありません。効果がないマスクを希望する自治体に配る、個人でも希望する人にあげます…という精神構造がよくないと思います。

森友問題で自殺した官僚の奥さんが起こした訴訟では、改ざんの詳細な経緯や指示の流れが明らかにならないまま、国が敗訴を認めてしまいました。裁判という仕組みの限界を表していると感じました。カルロス・ゴーンさんの場合も同じですね。あのまま逃げ切れるのでしょうか。

日本の国は真実を明らかにするというのではなく、お金でけりをつける仕組みになっている。ここが一番おかしいと感じています。周りが氣を遣って上に報告しないような風土・仕組みが出来上がっている所では、事実は事実通りに出てこなくなるのだと思います。全部がそういう状況になると、その会社は潰れるし、政治家は落ちると思います。

辛丑

では、テーマに入ります。令和 3 年の「辛丑」から来年の「壬寅」に至るまでを申します。

○辛い・苦しい・むごい年回り・・・実際に一年を振り返って、生きていることが辛い、生きていることが苦しい年だったと思います。先日、あしなが育英会が発行している「あしなが新聞」を読みましたら、創始者の方が書いておられた記事が印象に残りました。今まであしなが育英会には「助けて下さい」「応援して下さい」という手紙を沢山貰ったけれども、今年初めて「私たち親子は生きていてもよいのでしょうか」という手紙を貰って、大変驚いたとありました。今の時代はそこまで酷くなったのかとつくづく思いました。

生きていることが辛い、生きていることが苦しい、生きていてよいのか・・・そういう年回りであるにも関わらず、国の仕組みはむごさを更に増してきたと感じています。一つは、医療費です。75 歳以上の一人暮らしで年収 200 万円以上の人は、医療費負担が 1 割から 2 割になります。夫婦の場合は二人あわせて 320 万以上が 2 割負担です。これはどこかおかしいし、むごい政策だと感じます。それでいて大企業に対する政府の優遇措置は相変わらず手厚いものがあるのですから、おかしな話です。

令和 3 年の辛丑は、衰弱死する方はどうぞ・・・という流れだったと思います。国の中の色々な組織が衰弱して来ている。その最終は死を迎える。そういう流れに完全に入ったという印象です。

○コロナは一步一步人間社会に入り込み、しっかり地歩を固める年回り・・・コロナはすっかり人間社会に入り込んでしまいました。今年はコロナと共存した年です。来年以降は、コロナは更に当たり前になると感じています。

○一気に落ちてゆく人々と、一気に駆け上がる人々が生まれる・・・日本の国の中だけでなく世界全体で見た時に、一気に駆け上がっている人とは何か。お金の視点で見ると、今回のコロナで儲けた企業はどこでしょうか。製薬会社、ワクチンを作った会社、ワクチンを売る会社、それに伴って色々な検査キットも出てきていますが、そういう所に群がり寄った会社等々は相当儲けているでしょう。各国の政府と話し合いをしてお金をどれくらい貢いでいるのか分かりませんが、巨大な金が動いていることだけは分かります。巨大な金がそれぞれの国の政治家、利権に繋がる組織に流れ込んでいっていると見えます。

年頭に「コロナによって一気に駆け上がる人々」と書いた時は、コロナによって新たなビジネスが生まれ、それまでなかった会社が誕生し成長するというイメージでした。一年間眺めてみると、従来の利権構造が更に肥え太って、莫大な金額のお金が世界にばら撒かれたと世界を見て感じます。

翻って日本を見るとどうでしょうか。厚生労働省はいったい何をしたのか？ 国立感染

症研究所なる組織は、どういう所からお金が入って成り立っているのか？ どういう仕事をしているのか？ 今回のコロナによって国立感染症研究所の収入はどう変わったのか？ 仮にワクチンが人体に害をもたらさようになった時、責任はどこがとるのか？ 製薬会社なのか、輸入した国なのか、ワクチン接種をした医者や自治体なのか・・・そういう事を考えていくと、お金がどこで生まれてどこへ流れてどう収まるのかを見ないと、一気に落ちる人と一気に駆け上がる人が見えてこないと思っています。ですから今年一年を総括すると、コロナによって振り回された年だったと感じています。

壬寅

では来年（壬寅）はどうか。「知足」1月号に詳しく書きましたので、お手元に届いたらどうぞご覧下さい。

漢字から見ると、「壬」は「になう、はらむ、へつらう」の3つの意味があります。「になう」は荷物を背負うという意味から、仕事を受け持って責任を持つことです。「はらむ」は妊娠する。「へつらう」はおもねる。安倍さんの時に聞かれた「忖度」という言葉ももともとは氣を遣うという意味でしたが、今は相手の機嫌をとるとか、おもねるという意味合いが強くなっています。

「寅」は、ひとつ屋根の下に同じ志を持つ人同士が、協力し合うという意味合いです。

ですから来年は、任用が大変重要です。素晴らしい人材を見つけて、それを登用しなければならぬ年回りです。ところがその時にへつらう人間を登用したのでは、見るも無残な年回りになってしまう。国家としても組織や会社としても、この人間は本物だという人材を発掘し登用することが肝心であって、一見人材に見えるけれども腹の中は私利私欲の塊のような人間を採用した場合は大変なことになります。

来年は人材発掘が急務ではあるが、よくよくその人間の中身を見極めて登用すべきである。それを間違えたら大変な年になるし、本物を見つけたら素晴らしい年になる。これが「一気に落ちる人」「一気に駆け上がる人」の両方に加速をすることになります。つまり、私利私欲型の人間を登用した場合には一気に落ちる人々が本当に増えていくでしょうし、素晴らしい人物が出れば税制改革等々をどんどん進めるのではないかと思います。そして「寅」ですから、素晴らしい方にいった場合には、お互いに助け合って頑張ろうという形で進むでしょう。

したがって来年は、一つ良い循環が始まったら良い年回りが進んで行く。しかし佞人が出て来た場合は、自分達でお互い助けあう良い縁で繋がるネットワークを作っていくしか生き延びる道はないのではないかと思います。

先月も申し上げましたが、シムックスは向こう5年間の計画を策定する中に、スタグフレーションという言葉を入れるよう指示しました。スタグフレーションとは不況下における物価高です。つまり、収入が減って思うようにお金が入らない、けれども物価は上がる。ですから何とか収入の道を図っておかなければなりません。

以前は年収600万以上を中流と言っていたのが、400万となり、私は7、8年前から年収200万以上がボーダーラインになっていると言い続けていました。今年は明確に200万という数字が出ました。政府は200万以上を中流と見なして税金もとりし、医療費もそれに見合った金額を負担してもらおうと言っているわけです。スタグフレーションが始まると、税金を払わなくてよい年収200万以下の困窮家庭からも税金を取ようになります。昭和21年2月17日の話は何度もしています。それを調べれば、困窮家庭からも税金はとっていました。富裕層の最高税率は90%を超していました。同じことが起きると私は前から言っていますが、来年はそのスタグフレーションの始まりが見えるかもしれません。少なくとも向こう5年の間には起きると思っています。したがって来年の「壬寅」は、良い方向に行くか悪い方向にいくかの分岐点になると感じます。

スタグフレーションの話をもう少し致します。政府の視点でみれば、今はもう増税するしかありません。「入るを量りて出づるを制する」という言葉がありますが、個人でも会社でも国家でも、入るを量らないでまともな経済運営が出来る訳がない。どちらが先でも後でもなく、「入るを量る」と「出づるを制する」のどちらも重要です。現実に関、日本政府はどういう手を打っているかということ、「入るを量る」は一切ありません。税金を姑息な手段でちょろっと上げていますが、本格的に真つ当な道で「入るを量る」ことはしていません。尚且つ、「出づるを制する」の方はまるでやっていません。今は大盤振る舞いをしていますが、ばら撒くお金はどこから得るのでしょうか。どこの政党もどの政治家も言いません。

入るは量らず出づるは促進する…こんなことをやっていると国家として成り立たなくなる事ははっきりしていると思っていましたら、最近、なるほどと納得する言葉を聞きました。これだけ入るを量らず出づるを制さずばら撒きを続けると、日本は大丈夫かと国民から声が上がるだろう。そうなればしめたもので、このまま行けば日本の国が潰れるから増税しかないだろう…という方向へ国民を誘導していく。そのために今、せつせとばら撒きをしている状況というわけです。

お時間が少なくなりました。最後に申し上げます。これからはコロナと経済と両睨みで

見なければいけないと思っています。そうすると、どうしても先ほど言った昭和 21 年 2 月 17 日に何があったかを意識しなければならないでしょう。緊急金融措置令、それに伴って色々な法律が出ました。

同じような事が目の前に出てくるのは、政府から見てマイナンバーカードがだいたい普及した時です。その時は増税がどさっとかかって来るとしています。マイナンバーカードと同じ役目を持たされたのが昭和 21 年 2 月 17 日の緊急金融措置令です。手持ちの現金は使えなくなるからすべて銀行に預けて印字して貰い、後から新札で受け取りなさい。預けたお金は一所帯 400 円までしか下ろせません・・・というものでした。その時は現金や預金、株券、不動産、貴金属類に至るまで財産は全部申告させられました。政府の思惑通り国民にマイナンバーが行き渡ったなら、税金を取りたい放題取りますよ。そのために政府はマイナンバーを普及しなければならないわけです。

コロナで酷い目にあって、経済的にも追い詰められて、そうすると先ほどのあしなが新聞の「私たちは生きていてよいのでしょうか」という時代に入らざるを得ません。だったらそこから、「生きていていいのだ」「生きていくためにこういう事をするのだ」と声高に主張せねばならない、そういう年回りになると思っています。

今後のコロナ対応について

質疑応答の時間で、今後のコロナ対応について話をして欲しいとの事ですので申し上げます。

コロナについてはアクリル板やカーテンは役に立たないと思っています。逆に空気の流通を妨げるからです。私は現時点で励行しているのは、三つです。第一に肝心なのは換気です。二番目はマスクです。マスクは当たり前になりました。マスクは外からのウィルスを遮断するのではなく、自分がコロナに罹った時に他の人にうつさない、そういう効果の方がはるかに高いです。三番目はうがいです。今はうがい薬は沢山出回っていますから、普段より多めにストックしておく必要があると思います。換気・マスク・うがい、この三つを徹底すれば、私はコロナに罹らないと思っています。

政府の発表によれば、65 歳以上の高齢者は 9 割がたワクチン接種を 2 回しているということですが、私はワクチンを接種していません。今後もワクチンを打たなければ処罰されるような強制力を持たない限り、打つつもりはありません。その理由は、何度か申し上げている 3 種混合ワクチンです。安心・安全ということで 3 種混合ワクチンを強制的に打たされた人は沢山います。その結果、副反応でかなりの被害が出ました。裁判では政府はすべて負けて、結果、打ちたい人は打ってもよいという任意接種に法律が変わりました。変

わってすぐ適応になったのが、今回のコロナワクチンです。

日本人はそういう事実を直ぐに忘れます。私は過去の事実と照し合せて、政府の言う事は信用できないからワクチンを打ちませんでした。今後も打つつもりがないというのは、ワクチンを打ったことによって問題が起きた場合、誰が責任をとりますか？ 今回のコロナワクチンは従来のワクチンの製造方法とはまるで違います。日本の国は、コロナワクチンによって重大な被害が起きても製薬会社に責任を求めないという契約して買っています。では国が責任を持つのかと言えば、裁判を起こされればそこで決着をつける事になると思いますが、現時点では自己責任で打っているわけです。もし問題が起きれば、至る所で裁判が起きると思っていますが、真実はそこでは明かされないと思います。製薬会社と国、それに関係する団体、そこにお金がどのように流れていったのかを追究していけば、ワクチンは打ちたいとは思わなくなるのではないのでしょうか。

ワクチンを打っても副反応で酷い場合が想定されるし、検査もあまり当てにならないと思っています。では何を当てにするかということ、自分自身が健康体であることです。よく食べ・よく眠り・よく動く、これを実践すること。コロナに罹らない健康な心と身体を持っていれば、コロナに罹らないと思っています。そして、換気・マスク・うがいを励行する。私は来年一年間、これを実行し続けようと思っています。

私は世間に出回っている情報は自分の身体で実感したものでなければ信用しません。陽明学とはもともとそういうものです。人の話を聞いて、鵜呑みにしてはいけません。現場で体験すること、身体で感じることを、それを自分の心でしっかり受け止め、自分の頭で分析し、納得して初めて人さまに話をしたり、記録として残したり、自分自身の行動を決めていくことが必要だと思っています。したがって、来年はコロナに罹らない身体を作り、情報は自分が納得できるものをとる。その繰り返しであろうと思っています。

今の日本の政治家がやっているコロナ対策は、これで良いのかと思います。岸田さんは聞く力があるということですから、よく聞いてもらえば良いのですが、表面しか聞いていないと思います。介護や保育従事者の賃金を上げると言っていますが、色々な条件をつけて、ハードルを全部クリアしたら賃金が上がるという進み方しかしていません。やはりこれはおかしい。同じ条件の下で日本の国全体が公平で平等に進んで行くものが必要だろうと思います。コロナは最終的には政治家の仕事です。私は、新しいタイプの政治家が出てくるように願っていますし、そういう動きをしなければならぬと思っています。

お時間になりました。これだけあまり嬉しくない話を申し上げた後に「良いお年をお迎

え下さい」とはなかなか言いづらい部分ではありますが、是非、自分達ので良い縁・ネットワークを作り合って、自分達の意志で良い年を作り出していきましょう。そういう意味で、良い年をお迎えください。